

令和4年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	新緑会
議員名	早坂 博 羽立 秀光
調査実施年月日	令和4年11月16日(水)
調査先 自治体名等	東京都新宿区
調査項目	新宿通りモール化について
調査目的	支援事業について調査
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口:345,718人 行政面積:18.22km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・路上駐車対策について</li> <li>・安全快適な歩行者空間について</li> </ul>
感想(まとめ) 本市へ生かせること等	<p>《1、目的》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 荷さばき集約化や路上駐車対策により、新宿駅東口地区内の路上駐車を減らし、より安全快適な歩行者空間を創出する。</li> <li>② 新たに創出した歩行者空間を活用してまちの賑わいや魅力をさらに向上させる。</li> </ul> <p>《2、現況》</p> <p>(1) 対象地区の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 新宿駅東口地区は、新宿駅で囲まれた商業地域であり、百貨店や家電量販店等の物販をはじめ、多くの飲食店を有する日本有数の商業・サービス業の集積地である。当該地区に存在する建築物は40～50年を経過したものが多く、建物更新が促進されるべきであるが、狭小画地により賑わい創出している地区でもあり、大街区化を行わずに建物を更新しつつ、歩行者環境を改善し賑わいの創出ができるまちづくりを進める必要がある。</li> </ul> <p>(2) 該当地の路上における問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 日常的に路上荷さばきが頻繁に行われており、歩行者環境が阻害されている。</li> <li>② 違法路上駐車やパーキングメーターで制限時間を超える長時間駐車が発生している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場所を探すうろつき車両も頻発しており、交通混雑や歩行者の安全性が低下している。</li> <li>・歩行者が休憩等に利用できる溜まり空間が少なく、空間的な魅力が低下している。</li> </ul> </li> </ul>

(3) 原因

- ① 地区内に流入してくる荷さばき車両の台数が多い。
  - 知己内では小規模飲食店が多く、多頻度小口の荷さばきが主体である。
- ② 地区内には荷さばき駐車場が殆ど存在せず、荷さばき駐車場の需要に対応できない。
  - 大規模再開発が適用されにくい地区であるため、新たに荷さばき駐車場を整備することが困難である。

《3、賑わい創出・物流効率化の複合型プロジェクトについて》

1 プロジェクトの全体像

- ① 実験内容
  - 荷さばき集約化や路上駐車対策により、新宿駅東口地区内の路上駐車を減らし、車道部分に歩行者空間を創出する。
  - その歩行者を活用して賑わい創出を行い、まちの賑わいや魅力をさらに向上させる。
- ② 検討の体制
  - 協議会・有志懇談会を軸に、地元主体のもとプロジェクトの検討・実施を行う。

2 これまでの取り組みと経緯について

- 平成27年度に「新宿駅東口地区歩行者環境改善協議会」を設置し、歩行者環境の改善に向けた荷さばきの集約化実験を実施するとともに、地元協力体制の確立等に取り組んでいる。
- 平成28年度は、荷さばきの集約化と、「中央通り」を対象とした駐車場所・時間の適正化に係る社会実験を実施した。
- 平成29年度は、まちのシンボルロードである「新宿通り」を中心に荷さばきの集約化と、駐車場所・駐車時間の適正化を図りながら、道路空間（車道）の一部を歩行者空間に転用し、道路空間を活用した賑わい創出実験を実施した。
- 平成30年度は、「道路空間の活用による賑わい創出実験」、「荷さばき集約化実験」、「駐車場所・駐車時間の適正化実験」、「荷さばき時間集約化」の4つの実験によって構成された、複合的な社会実験を実施した。
- 令和元年度は、前年度に引き続き、複合的な社会実験を実施した。

【感想】本市の安全快適な歩行者空間を考える上で大変参考になりました。

